川崎市立川崎病院通信

第7号

くすの木

川崎市立川崎病院
シンボルツリー

平成１７年８月１５日発行（第７号）　発行責任者：鈴木　康夫　編集：広報委員会
事務局：川崎市立川崎病院庶務課　川崎市川崎区新川通１２－１　電話044-233-5521
http://www.city.kawasaki.jp/35/35kawsyo/home/home.htm

願いをこめて・・・今年もたなばた飾り

当院では、患者さんやご家族の方々に四季の風情にふれていただければと思い、看護部自治会で玄関ホールと小児科病棟での七夕飾りを毎年実施しています。

今年も玄関ホールに大きな七夕飾りを設置し、来院される方々の好評をいただきました。

また、この七夕飾りには、患者さんやご家族の方々の書かれた短冊が飾られています。

今年も、「じいちゃんの病気が早く治るように」、「パパちゃんが早く退院できるように」、「病気の原因が早く分かるように」、「食事が早く食べられるように」などのたくさんの願いが笹に結ばれていました。

また、この七夕飾りに多くの患者さんやご家族の方々に「心にうるおいをいただきました」等の喜びの声をいただきました。

この行事は、私たちスタッフにとっても、患者さんやご家族の方々の思いにふれる機会ともなりました。

今後も、様々な行事を通じた交流の機会やこのような「良いひととき」を大切にしていきたいと考えています。

看護部自治会

ボランティア活動

新たな事業も開始！
一緒にボランティアしてみませんか？

川崎市立川崎病院では、ボランティアの方が患者さんのための様々な活動に携わっています。病院では、常時ボランティアさんを募集しています。

現在、２７名の方がボランティアとして登録されており、皆さん、とても明るく生き生きとした表情で活躍されています。患者さんとの会話に、優しい気持ちが満ち溢れているからでしょう。患者さんや家族の方々からも「とても助かっています」と評判です。

当院でのボランティア活動内容を紹介します。

①外来患者さんの案内やお世話
②小児科病棟患者さんへの絵本の読み聞かせ、遊び相手、食事のお世話
③入院患者さんの食事のお世話や移動のお世話。病室の整理整頓
④患者図書の整理

また、「つつじ文庫」は、各病棟デイルームに設置されている患者さん用の図書コーナーです。この８月からは、新しく病棟巡回サービスを試行しています。

今後も、活動されているボランティアさんの意見や、新しくボランティアを希望される方のお話も聞きながら、活動内容を増やしていきたいと思っています。

「興味がある」「やってみたい」という方、ぜひ担当までご連絡ください。

［連絡先］川崎市立川崎病院ボランティア推進委員会
（担当）
ボランティアコーディネーター
中塚和子(８階北病棟)
電話(044)233-5521
(内線)3294

編集後記

暑い日々が続いているなか、頑張り過ぎた身体をいたわりながら「ホッ」と一休み。今回、熱中症対策などを掲載しています。「くすの木」をお読みいただき、本誌掲載の情報が皆様のいたわりの身体のお役に立てたら、うれしいです。　（広報委員会）

川崎市立川崎病院の基本理念

川崎市立川崎病院は、自治体病院として、市民に最善の医療を提供し、地域の皆様の健康と福祉の向上に貢献することを目指し、その目的のために職員の和とたゆまぬ研究心をもって、次のことを実践してまいります。

1　「病気」ではなく「病人」を診る患者さん中心の医療
2　地域の基幹病院として、質の高い医療を提供
3　健全な経営基盤の確立

[患者さんの権利」

1. 生命の尊重と、人格を尊重した医療を受けることができます。
2. 安全で安心できる良質な医療を受けることができます。
3. 患者さんご自身の病気や治療について、わかりやすく、また、十分な説明と、その情報の提供を受けることができます。
4. 希望や意見を述べていただき、診療方法については自らの意思で選択あるいは拒否することができます。
5. ご希望により、診療のいかなる段階においても、他の医師の意見を聞くことができます。
6. 診療上の個人情報は保護され、その秘密は守られます。

専門外来の充実を進めています
６月から前立腺外来・乳腺外来を開設

川崎市立川崎病院では、より良い医療を患者さんに提供するため、様々な専門外来を設けています。

○家族で考えようお父さんの病気

前立腺がんはここ数年、日本でも増えていて、年間14,000人以上が前立腺がんと診断され、この20年間では患者数が７倍に増加しています。

排尿障害などの自覚症状がなくても、60歳以上の男性では年１回の検診を受けることが早期発見のために勧められています。

当院の泌尿器科外来に新設した前立腺外来の対象となる方は、①健康診断等で前立腺特異抗原(PSA)が高値と指摘された方、②前立腺生検を受けようかどうかと迷っている方、③前立腺がんの診断を受けて、治療方針について詳しい説明を求めている方等です。前立腺外来は、火・木曜日の午後２時から４時までの開設です。受診については、３階の泌尿器科外来窓口でお尋ねください。

○乳房のことでお悩みの女性、まずご相談を

現在、日本女性の主要部位別がんの年齢調整り患率の一位は「乳がん」であり、それは近年増加傾向にあります。そのためか、最近、マスコミ等から様々な情報が洪水のごとく発信されていて、その中には、不安をかき立てる情報もあり、お悩みの方も多いようです。

このようなお悩みに応えられるような外来を目指しているのが乳腺外来です。

外科外来で行っている乳腺外来は、①他院で専門医を勧められた方、②乳がん検診で精密検診を受けるよう指摘された方、③当院で乳がんの治療を希望される方等を対象としています。

木曜日の午後1時30分から4時30分までの開設です。ご希望の方は外科外来までご連絡ください。

救急センターを設置しました

川崎市立川崎病院では、様々な病院機能の充実と強化に取り組んでいます。このたび、市民の要望が大きい救急医療体制の整備を図るため、救急センターを設置いたしました。

川崎市立川崎病院は昭和40年8月から「救急指定病院」となっています。当院は地域の基幹病院として救急医療にも取り組んできましたが、市民からの救急医療の充実を求める声が年々高まってきており、これに応えるため、本年7月1日から院内に救急センターを設置いたしました。

一般に、救急患者さんは大きく、一次（軽症、帰宅可）、二次（入院治療が必要）、三次（重症で救命処置が必要）に分けられます。施設によっては三次救急医療だけの場合もありますが、当院はその性格上すべての救急患者さんへの対応が求められています。

また、救急医療が円滑に行われるためには、救急情報、救急搬送、救急診療の三つの要素の整備が重要です。当センターを設置するにあたっては、まず、平日の朝９時から夕方５時までの時間帯に救急ホットラインを整備し、コーディネーター医師を中心に、救急搬送された患者さんの初期診療を行う体制を整備いたしました。

さらに、専門的な疾患に対応するため、各診療科にセンター担当専門医を任命しています。

このような体制は、救急患者の初期診断・初期治療から専門治療に至るまで、迅速に対応できることを意味しています。

当センター開設後の１か月間の救急搬送患者数は１６８人で、昨年同月より４６人増えました。

将来的には、夜間・休日の体制も充実させて、より高度な重症救急患者を受け入れる体制を目指しています。現状では、設備、人的資源などに関する課題が山積しており、関係各方面のご協力をいただきながら充実を図ってまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

最後に、当院は次世代の医療を担う医師を育成していく責務があります。

日常遭遇した救急患者に対し、医師として何らかの診断と応急処置ができるよう育成に努力していきたいと思っています。

救急センター長
石井誠一郎

コンポスト お分けします

川崎市立川崎病院では、生ゴミから堆肥(コンポスト)をつくり、院外の施設・団体の方にも無料でお分けしています。

コンポストを希望される方は、当院の庶務課管理係までご連絡ください。

TEL (044)233-5521
(庶務課管理係)

投書箱に寄せられた皆様のご意見から

お子様のおむつ交換ベッドを外来に増設しました

当院では、院内に設置された投書箱へのご意見やご要望などを基に、院内設備や制度の改善に努めています。

これらの実例は、この紙面などで皆様にご報告しています。

これまで、当院の乳児用おむつ交換ベッドは、小児科外来の待合室に設置していますが、利用者の方から小児科外来だけではなく、救急外来にも設置して欲しいというご要望を多くお寄せいただきました。

このため、本年5月から救急外来の女子トイレ内におむつ交換ベッドを新たに設置いたしました。

おむつ交換ベッドが設置された箇所には右のイラストが表示してあります。

今後も利用しやすい病院づくりに努めてまいりますので、皆様からのご意見・ご要望をぜひお寄せください。

部門紹介

皮　膚　科

皮膚科は皮膚に生じる病気を診察する科です。

現在は、３人の医師で日々の診療を行っています。

体の皮膚のどこかに発疹やしこりが出たとき、あるいは、いぼやホクロができたときに当科を受診してください。

また、皮膚に何もなくてもかゆみや痛みを起こす場合もときに見られます。なんだか分からないけどかゆくてお困りの方、巻き爪でお困りの方、治りの悪い傷やおできが出来てしまった方、また、最近ふえている金属や化粧品などのアレルギーの相談も受け付けています。

どんなことでも皮膚のトラブルは一度ご相談してみてください。

皮膚科部長　宮川俊一

食　養　科

食養科は一日約1,600食の患者さんの食事づくりと栄養指導を担当しています。

常食では、朝食と夕食に2種類のメューから選べる選択メニューを実施し、また、四季折々の行事食も取り入れて、安全でおいしい治療食づくりを目指しています。

治療食への理解を深めていただくために糖尿病・腎臓病などの栄養指導を行い、退院後自宅での食事についてご家族を含めた栄養指導・相談も行っています。「糖尿病教室」は6回1コースで開催しており、当院の外来・入院を問わずどなたでも参加することができます。

食養科長　安斉和幸

川崎病院の情報や診療科・専門外来などについては、当院のホームページでご案内しております。

ホームページでは、その他にも新しい情報や皆様の健康に役立つ情報をお届けしていますので、

ぜひ！アクセスしてください。

http://www.city.kawasaki.jp/35/35kawsyo/home/home.htm

季節のone point 熱中症のおはなし

子ども達が夏休みに入り開放感あふれるこの季節は、熱中症が多く発生する季節でもあります。今回の季節のワンポイントは、熱中症について、内科の津村医師にお話を伺いました。

１日の最高気温が３０℃を超える頃から熱中症の発生件数が急増することが、救急搬送件数の推移から知られておりますが、みなさんはどの様に対応されていらっしゃいますか。

「**熱中症**」とは、高温や高湿の環境下で起こる全身の熱障害を広く意味しますが、症状や発生原因などにより「熱痙攣」、「熱疲労」、「熱射病」などに大別されます。「**熱痙攣**」とは、水分だけを摂取することでナトリウムの欠乏状態が生じ、その結果筋肉の痙攣が起きるものです。

最近、医学雑誌でもマラソン競技中の塩分補給の重要性が喚起されており、塩分補給の重要性は意外と知られていないようです。「**熱疲労**」とは、大量の発汗を認めた後の脱水症状であり、疲労感・頭痛・めまい・吐き気などを訴えるものです。熱射病の前段階ともいえます。「**熱射病**」は、身体の内部温度が異常に上昇する体温調節中枢の機能障害であり、興奮・錯乱・昏睡などの症状に至る大変危険なものです。その他、発汗などで一時的に循環血漿量が減ることにより引き起こされる失神を「熱虚脱」や「熱失神」と呼びます。俗にいう「日射病」の大半がこれに当たります。

さて、こうした恐い状態にならないようにするための“ 予防 ”についてですが、①適切な水分補給（炎天下での活動では、１５～３０分おきに150～300mℓの摂取を！　美味しくありませんが、少し薄めたスポーツドリンクが理想的）、②衣服の工夫（熱の放散を促す素材で）、③仲間同士の確認、の３つが大切です。

もし、こうした熱中症を起こしてしまったら、①休息、②冷却、③水分補給、の３つが手当ての柱となります。氷嚢やアイスパックで冷やしたり、団扇や扇風機で送風したり、出来ることを迅速に対応しましょう。

そして、自分で飲水が出来ない・顔色が蒼白・脈が弱いなどの状態が見られる時は、迷わずに最寄りの医療機関を受診してください。

ありふれた病気であり一見甘く考えがちですが、毎年死亡事故がなくならない現状を是非とも忘れないでください。

そして、楽しい夏の想い出を沢山つくっていただきたいと願っております。